

県中教研

特別活動部会だより

第 35 号

発行日 令和2年3月
発行所 富山市千歳町1-5-1
富山県中学校教育研究会
編集責任者 松尾 陽一
題 字 金山 泰仁 先生

主体的な話し合いを目指して

指導主事 横山 恵

本年度は、研究主題「学級活動を通して身に付けるべき資質・能力を育成するための指導はどうあればよいか。一生徒が主体的に参加し、合意形成や意思決定を目指す話し合い活動を通して」に沿って授業研究が行われました。例えば、合唱コンクールや日頃の学習規律を題材として取り上げ、よりよい学級づくりを目指す取組について考える授業がありました。どの授業も、学級や学校生活に関する具体的な問題について、生徒が必要感をもって話し合い、実践を通して解決できるよう、指導過程が工夫されていたと思います。

さて、特別活動は、自分の意思決定や集団での合意形成を体験しながら、自分らしい生き方を考えることのできる学習です。特に、合意形成を図る場面では、自分の考えを基に他の思いを受け入れ、折り合いをつけながら学級全体の考えとして練り上げ、よりよい学級づくりへの実践につなげることが大切です。

授業の導入においては、生徒が学級全体の課題に気付き、課題解決への見通しをもてるよう、教師が事前に生徒の実態を丁寧に捉え、アンケートの結果を提示する場面がありました。グループでの話し合いでは、付箋を使ったKJ法や「ダイヤモンドランキング」等を活用して、意見の違いや多様性に気付き、考えを深め、生徒が自信をもって話し合いに臨めるような工夫が見られました。また、学級目標に立ち戻り、学級全体で取り組むべき行動目標を考えたり、現実的に取り組める実践かどうか見直したりする場面もありました。生徒自身の力でよりよい仲間づくり、互いを尊重し合う学級づくりに向け、日々の生活改善につなげるための話し合いが主体的に展開されていました。

今後は、小学校や高等学校との連続性を意識しながら、系統的、発展的な指導内容を更に工夫することが望まれます。特別活動のねらいや目指す生徒の姿を踏まえ、実践や振り返りを工夫しながら、指導内容と指導過程を充実していくことが大切だと考えます。

(西部教育事務所)

合意形成と意思決定

部長 松尾 陽一

今年度は、研究主題を「学級活動を通して身に付けるべき資質・能力を育成するための指導はどうあればよいか」、副題を「生徒が主体的に参加し、合意形成や意思決定を目指す話し合い活動を通して」としました。昨年度は、意思決定を図る話し合い活動の研究が十分に行えなかったという反省点が挙げられ、今年度は、「合意形成や意思決定を目指す話し合い活動を通して」として研究することとしました。

第63回研究大会は、東部地区は富山市立北部中学校を、西部地区は砺波市立庄西中学校を会場として行われました。両会場ともに、本時の学習までに班長会等を行い、話し合い活動の準備を進めるなど、課題の必要感を高め、本時の話し合い活動を主体的に行うことにつなげていました。

また、話し合い活動では、付箋を利用したKJ法やキーワードを並べるダイヤモンドランキングや意見を表明する短冊の活用等、クラス全員の意見を取り上げる工夫が見られました。

一方、課題としては、両会場とも合意形成に重点を置いた話し合い活動が実践されましたが、課題や本時のねらいを考えると意思決定に重点を置いた方が適切だったのではないかという意見もありました。本時の課題が合意形成と意思決定のどちらに導く必要があるのかを、生徒にも明確にしておくことで、より充実した話し合いとなると考えます。次年度は、課題（題材）や授業のねらいから、合意形成と意思決定のどちらを目指すのかを、学習過程に適切に取り入れた実践が各校で見られるように研究を進めていきたいと思います。

部会協議に参加された先生方からは、「部会で学んだことを、学校等で伝え、広めていきたい」という意見がありました。次年度は、是非、研究の成果を多くの学校に広めていける部会になることを期待しています。

(高・芳野中)

第63回 富山県中学校教育課程研究大会

東部地区（富山市立北部中学校） 令和元年10月9日（水）

第1学年では、「清掃活動の見直し」を議題にした授業が行われた。

司会者の生徒が中心となり、班や全体での話合いの状況に応じて活動を進めていた。また、提案者が、事前に行ったアンケート結果を画像で示しながら、提案理由を分かりやすく説明していた。

班活動では、事前にワークシートを記入し、自分の考えを明確にして話合いに臨んだことで、活発な意見交換がなされていた。全体での活動においても、班での話合いを踏まえて様々な意見が出され、生徒全員が課題に対して真剣に考えている様子がみられた。



協議会では、「教師側が意図しない意見が出たときの関わり方」や「具体的な課題設定の仕方」が課題として挙げてきた。生徒に任せつつも、教師の関わり方について深く考えていく必要がある。

田近雅美指導主事（東部教育事務所）からは、「生徒が話し合いで決定したことに主体的に取り組むためには、議題が生徒にとって自分事となっていることが必要である」「合意形成を目指す話し合いでは、学級目標『笑顔』をキーワードに、意見の内容やそこに込められた思いを確認することが大切である」等の助言をいただいた。

徳松 佳秀（中・上市中）

第2学年では、「学習を向上させる取組を考えよう」を議題にした授業が行われた。

前時までに、「私語」と「ベル着」が課題であることを共通理解した上で、学習を向上させる取組を考えるという内容であった。

生徒が司会者となって学級会を進行し、議題について4人グループで意見を出し合った後、クラス全員が意見を発表した。その後、「私語」と「ベル着」について、どの取組がよいか意見を出し合い、拍手による承認で取組内容が決定した。

協議会では、「学級会の流れができあがっていたので、進行がスムーズだった」「全員が意見を

発表しており、学級会に積極的に関わることができていた」という意見もある中、「個人の意見をもつ時間が不十分だったために、グループ活動が活発に行われなかった」「合意形成の場面では、少数の生徒だけで取組内容を決めていた」という意見が挙げられた。



堀井祐一指導主事（東部教育事務所）からは、「生徒にとって必要感のある議題を選定すること」「合意形成を図るには、現状の確認や原因についてしっかりと共通理解し、同じ土俵で話し合うこと」が大切であるなどの助言をいただいた。

大谷 嘉明（黒・宇奈月中）

第3学年では、「合唱コンクールに向けて気合を高めるために、各パートでできることを考えよう」を議題にした授業が行われた。

男声、アルト、ソプラノの各パートに分かれ、それぞれ黒板やホワイトボードを用いながら【個人⇒小グループ⇒パート全体】の流れで活動が進められた。全体司会の生徒はもちろんのこと、各パートリーダーも司会者として前に立ち、話し合い活動等を円滑に進めていた。最後には、各パートで合意形成された取組を全体で発表し、クラス全体での共有を図った。



協議会では、「身近な課題設定により、生き生きとした話し合いだった」「3つの学級会を同時に見ているようだった」「合意形成やまとめの場面では教師の関わり方も大切である」等、様々な意見が挙げられた。

京貴広指導主事（東部教育事務所）からは、「有意義な話し合い活動には『慣れ』も大切であり、話し合いのルールや雰囲気づくり等、学校のスタッフ全員で取り組んでいく必要がある」等の助言をいただいた。

上田 和裕（魚・東部中）

第63回 富山県中学校教育課程研究大会

西部地区（砺波市立庄西中学校） 令和元年10月9日（水）

第2学年では、「社会に学ぶ『14歳の挑戦』の経験から、学校で取り組むべき実践を決定しよう」という議題で話し合う授業が行われた。付箋を利用したKJ法で個々の考えを引き出し、グループで共有することによって、より建設的な意見が引き出されていた。また、生徒自身が体験した内容を基に話し合いが進み、生徒は互いの意見を真剣に聞き合っていた。

グループ内での意見交換の時間が十分に確保されていたので、全体の話合いでは、理由を述べて自分たちの意見を伝えていた。司会者の生徒が意見を丁寧に取り入れながら円滑に進行し、個人の考えを尊重する雰囲気があった。



部会協議では、「KJ法により自主的で活発な話し合いになった」「グループ内での関わり合いが積極的に行われていた」といった意見が挙げられた。課題としては、「ワークシートを書けない生徒が多かったので、工夫が必要である」「題材についての困り感や必要感を生徒にもたせるための手立てが必要である」といった指摘があった。

横山恵指導主事（西部教育事務所）からは、「よりよい学級づくりにつながる指導過程を意識して授業を行う」「切実感のある議題を選定し、意欲付けを図る」「少数意見を認め、全員が納得するような話し合いをゴールとする」「色々な生徒の考え方を引き出す工夫をする」等の助言をいただいた。

中井 裕之（砺・出町中）

第3学年では、「思い出に残る合唱コンクールにするために、スローガンを決めよう」という議題で授業が行われた。

各班の話合いでは、事前アンケートを基に選出した9つのキーワードのダイヤモンドランキングを作成した。一人一人がそれぞれのキーワードについての意見を発表し、合意形成を図った。

全体での話し合いでは、ホワイトボードを用いて各班の意見を提示し、質疑応答で意見交換をしながら学級のスローガンを決定する活動が展開された。



部会協議では、「導入で教師の学生時代の合唱の様子を視聴したことで生徒の意欲が高まった」「司会者との事前の打合せが十分にされており、話し合い活動が円滑に進められた」といった意見が挙げられた。

課題として「合意形成に至るまでの時間が足りず、目標のスローガンの決定ができなかった」「教師が関わるタイミングや効果的なサポートが難しい」といった指摘があった。

原田尚計指導主事（西部教育事務所）からは、「集団としての合意形成なのか個人として意思決定なのか明確にした学級会の進行過程を確認しておく」「評価方法を工夫し振り返りを大切にする」「集団としての合意形成を図る場合の学習過程は、問題の意見・確認、解決方法の話し合い、解決方法の決定、決めたことの実践、振り返りの5つのステップで取り組む」等の助言をいただいた。

松村 久志（氷・西部中）

授業力向上のためのアドバイザー 特別活動

よりよい学校・学級文化を 創造する特別活動 ～学級活動での話し合い活動 〔合意形成と意思決定〕を 基盤として～

日本体育大学
体育学部兼任講師
島田 光美先生



1 文化活動の創造を通して育成される「資質・能力」

(1) 学級経営で培われる文化活動

「もっとよりよい学校・学級にしたい」

という思いや願い

- ①問題解決への意欲の高まり
- ②よりよい人間関係の構築
- ③学校・学級生活の充実のための参画
- ④自分のよさや可能性の発揮

(2) 生徒指導が機能する文化活動

《活動を通して育てたい生徒の姿》

- ①相手の目を見て挨拶できる生徒
- ②授業の中で、励まし合える生徒
- ③人の話をしっかり聴こうとする生徒
- ④自分の学校を誇りに思っている生徒

2 学級活動各内容の特質を生かす実践

(1) 話し合い活動の効果

①話し合い活動の意義

- ・ **合意形成** の力を付ける
自発的、自治的な活動の高まり
- ・ **意思決定** の力を付ける
話し合いを通して自己の問題解決に当たる

②話し合い活動への参加意欲

- ・ 諸問題に気付くための働きかけ
→学級コーナーの設置、切実感のある議題
- ・ 自己の問題を学級の問題として

受け止めさせる働きかけ

- ・ アンケート等による実態調査、分析

(2) 話し合い活動を支える学級づくりを核とした学級経営

- ①集団の中での自己の役割遂行
・ やってみせる、やらせてみる、協力させる
- ②役割遂行と自己有用感・所属感
- ③集団への貢献と成就感
- ④生活意欲と集団の質の向上
- ⑤感動体験の積み重ね
- ⑥ “われわれ意識” のある学級

(3) 特別活動部会のリーダーシップ

- ①議題や決定事項の可視化
- ②日頃の授業実践（互見授業）の蓄積
- ③学級の協力により解決できる問題の議題化
- ④話し合いを効果的に進める手順の明確化
- ⑤ 「話し合いの充実」 についての評価
- ⑥教科指導との関連

3 学級活動と生徒会活動、学校行事等との関連

(1) 規範意識と自己有用感の育成

- ①生徒会活動：各種の委員会活動との連携
- ②生徒会活動：学級活動との連携
・ 学級での所属感・連帯感を高める
- ③生徒会活動：生徒集会

(2) 仲間への感謝・学校への誇り

- ①学校行事：体育的行事
・ 長縄跳びを成功させよう
- ②学校行事：文化的行事
・ 合唱の目標を決め、聴く人を感動させよう
- ③学級活動の集団決定を生徒会活動へ

4 新学習指導要領（中学校）で重視する点

(1) 自治的能力と社会参画

- ・ 体験活動や経験だけに終わらせない
- ・ 話し合い活動を通して意思決定させる

(2) 小中高で連携する活動

- ・ 入学準備のガイダンスの機能を生かした活動
- ・ 働くことへの興味や関心を深める活動
- ・ 生活を見つめ、よりよい自分を追求する活動

上田 努（小・大谷中）